

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492500036	事業の開始年月日	平成23年6月2日	
		指定年月日	平成23年6月2日	
法人名	特定非営利活動法人 き・ら・ら			
事業所名	グループホーム ほっとハウス星ヶ谷			
所在地	(〒249-0003) 神奈川県逗子市池子2-8-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和1年9月20日	評価結果 市町村受理日	令和1年11月11日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の持てる力を維持し続けてもらうための方策として、職員の配置を厚くし、入居者と関わり合う時間を多くしている。</li> <li>・日々の散歩、おでかけ企画などで、入居者が外出する機会をできるだけ増やすことを心がけ、散歩表も作成している。そのための開設当初からのボランティアがいる。またレクリエーション企画等を行い、職員がシフト勤務外で参加している。</li> <li>・食材に調理済み食材等は使用せず（日曜夕食を除く）、入居者の方々と下ごしらえをしたり、家庭と同じように調理をし、食事を楽しんでいる。</li> <li>・認知症高齢者への対応に留まらず、地域の福祉ニーズを捉えることに努め、新たな事業の進化に努めている。</li> <li>・毎月第3金曜日、交流サロンを定期的に開催し（歌の会、書の会、茶会など）、地域とのふれあいの場を設けている。</li> </ul>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和1年10月9日	評価機関 評価決定日	令和1年10月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b></p> <p>◇職員の優れた定着率と連携の良さ。                  ・20名の職員がおり、その半数は設立以来の職員で占められている。ベテラン社員が若手社員の面倒を見て育てており、一つのチームとしての連携ができています。日常は職員4名体制でケアに当たっており、人的に若干余裕もあることから入浴介助はスケジュール通りに行え、折に触れて散歩に出ることもできる。</p> <p>◇利用者の人格尊重                  ・利用者には、丁寧な声かけ、馴れ馴れしさを避けるなど、人生の先輩として尊敬の念をもって対応している。トイレ、入浴などの声かけの際には利用者の羞恥心に配慮したさりげない心遣いに努めている。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b></p> <p>◇電動車椅子の導入                  ・事業所前は坂道になっており、車椅子での外出が不自由であったが、職員の要望を入れ、電動車椅子を導入した。その結果、職員1名でも安全に利用者を散歩に連れ出すことができるようになった。</p> <p>◇利用者意見を取り入れた食事の提供                  ・献立表は事業所が作成し、職員が調理している。日曜日には利用者の希望で、寿司、うなぎ、天ぷらなどの特別メニューにすることがある。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームほっとハウス星ヶ谷
ユニット名	—

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は、開設前のスタッフミーティング時に、スタッフ全員で検討し決めた。開所時、大きな模造紙に書き、食堂に掲げていたが古くなりってしまい、新たに作り直した。月1回のスタッフミーティングの際、レジュメの冒頭に入れ、目に触れるようにしている。	・理念は「自分と自分の親を入居させたい」である。管理者と職員は、利用者と対等な関係を築くように努めている。 ・利用者と同じ目線での声掛けを重視し、いつも明るく笑顔でいて欲しいと心配りしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	真夏の炎天下を除き、日常的に近所への散歩を行っており、近隣の方々との出会いを大切に、近くのお寺、陶房を訪れたりして地域との関わりを持っている。月1回の交流サロンを実施したり、様々な催しで地域に交流の場所を提供している。	・事務所では、毎月「交流サロン」を開催し、地域住民約10名が参加し、サンドイッチとお茶やコーヒーでもてなしている。 ・利用者は地域の夏祭りにお神輿見物をし、神主さんからお祓いをしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者等の相談が持ち込まれたり、新しいボランティアの方々に認知症を理解してもらえよう努めている。また交流サロン等での入居者との関わりの中から理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3か月に1回定期的に開催している（2019年度は年6回を予定）。ご家族、民生委員、地域包括支援センター職員、地域のNPO団体、市高齢介護課職員が出席して下さっており、入居者近況、事故報告並びに要望や防災対応についてなど、さまざまな意見を反映させるよう努めている。	・運営推進会議は、年6回の開催を予定している。 ・会議では、運営推進会議で誤薬や転倒事故などの事故報告をして、対処方法を話し合い、なお誤薬防止については係を明確にし、更にチェック体制を徹底することにする。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の正式な委員ではないが、ご案内をしているため、概ね毎回オブザーバーとして出席してくれており、協力関係を築くよう努めている。	・市の高齢介護課の職員とは、運営推進会議や電話で、事業所の活動状況や事故などの報告を密に行っている。 ・敬老の日には、市の担当者が100歳の利用者のお祝いに来ていただいた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	“身体拘束を行わない施設”を目指して、日々のケアに当たっている。但し、ご家族の了解のもと（同意書を含む）転落防止のためのベッド用サイドレールを設置している方が4人、つなぎ寝巻を使用している方が1人おられる。これらが身体拘束にあたることを、スタッフが十分理解できるよう研修等を行っている。	・内部研修で、身体拘束についてスタッフ間で再確認している。例えば「車椅子に鈴をつける」ことが拘束に当たるか否かについて話し合った。 ・職員は、研修と実際の介護を通して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員で3か月ごとに「身体拘束防止委員会」を開催して、拘束をしないケアに取り組むと共に、議事録を残すことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われている事はない、と認識している。防止法等の学習会開催が課題である。雇用時、基本理念を理解してもらえるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者のお1人（以前にもおられた）が成年後見制度を利用しており、外部の行政書士の方の学習会を開催したこともあり、研修資料として活用することもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、管理者又は副ホーム長等2人で、必ず説明を行っているが、説明不足による事案が発生したこともあり、契約書の見直し、契約時の適切な説明等を検討している所である。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時には、必ず職員が対応し、ご意見等を聞くよう心がけている。定期的開催している運営推進会議に、ご家族の代表に参加していただいている。 また、ご家族との懇親会を年2回開催し、ご意見、ご要望をきく機会を設けている。	・家族の意見・要望は、来訪時や運営推進会議で聞いている。 ・年2回の家族懇親会に10人ほどが参加している。「車椅子でなく椅子に座らせて欲しい」「もっと散歩させて欲しい」などの要望があり、現在、対応をに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に気づいたことを業務日誌等に記入するようにしている。毎月最低1回（2回のときもある）のミーティング時には、「その他なんでも」の項目で提案できる体制をつくっている。職員から出されたアイデアや工夫を実践している（食事作り、パン作り、敬老のお祝い、誕生会、おでかけ企画など）。また、必要に応じて個人面談を実施している。	・職員が気付いたことを業務日誌に記載し、読んだ職員はできることはその場で実践して、月1回のミーティングで確認している。 ・職員の要望で、耳で測る体温計や電動車椅子などを導入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境にするため、毎月のシフト作成時、職員から就労希望日を提出してもらっている。前記のとおり、個人面談を実施しているほか、必要に応じて、グループホーム管理者、ホーム長等との情報交換、意見交換を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム管理者、副ホーム長等と積極的に協議するほか、日常的にシフト業務に入り、職員の業務の様子、入居者の様子の把握に努めている。また、グループホームで経験を積んだ職員は資格（介護福祉士、ケアマネジャー）を取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	3か月に1回の地域グループホーム連絡会議に参加するよう努めている。また、2年間、連絡会議の幹事を務めていた。職員交流の実施を他施設と調整を行ったりしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に、ご家族からのアセスメント（パーソンセンタードケア書式）を行い、十分に把握するように努め、無理なく、施設に馴染んでもらえるように声かけを行っている。また、毎月のミーティングまたはケース会議で対応の仕方などの情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の前段階で、施設の内容について、十分に話をした後に契約に至る場合もあり、連絡を密に行うことに努めている。施設内を見学していただき、日常の様子を見ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	正式契約に至る前の段階で、希望に応じて、お試しでの宿泊を実施する場合もあり、その際、グループホームからデイサービスに通った事例、また、2週間のお試し泊の後正式契約した利用者もいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当グループホームで最も重視している事項である。日々の洗濯干し、居室の掃除、窓拭き、食事作り、後片付けなど、それぞれの入居者の状況に応じて、支援しながら、日常的におこなっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のちょっとした異変（熱がある、血圧が高い等）に気づいた場合や、事故報告は、ご家族に電話連絡をしている。また、必要に応じて、施設に来ていただき、ご家族といっしょに対応策を考えるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元でのご友人等には、積極的に来てもらえるようにしている。また、車いす対応車で、ご自宅付近をドライブをすることもある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の家族懇親会は、家族の希望で参加しやすい曜日で実施している。</li> <li>・家族となじみの場所に散歩したり、お墓参りや最近できたコンビニと一緒に出かける利用者もいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に、入居者の方々は食堂で過ごされている。毎日の食事、お茶、おやつ、体操、レクリエーションなど、特別な場合を除き、全員で行っている。食堂はあまり広くない事が、一方では入居者同士の関わりが深まっている面もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状をお送りしている。5周年記念イベントへのご案内をお送りしたり、退去なさった入居者ご家族が訪問されることもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は日常的に入居者と関わっており、入居時のアセスメント（生活歴や思いなど）を参考にしながら、入居者の意向の把握に努めている。	・職員は、利用者との会話から、利用者の本意をくみ取り、希望や意向に沿えるように努めている。 ・表現が困難な利用者には、表情や仕草から意向を読み取っている。職員は、利用者には笑ってもらえるように声をかけ話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	No. 16で記載したとおり、契約時にさまざまな視点から入居者の好みやこれまでの生活スタイル等を記入してもらうよう努めている。ご家族と話し合う機会を積極的に持つよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録、バイタルチェック表等を作成し、シフト業務へ入る際に確認するように努めている。また、体調やその日の様子などの申し送りを徹底するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は担当者（ケアマネジャー）が、本人の思いを聞くことに努め、ご家族と話し合うことはもちろんのこと、毎月のミーティング等で情報共有したり、介護職員との協議をするなど、多くの意見やアイデアを反映することに努めている。	・ケアプランの期間は6か月とし、変化があった場合はその時点で見直している。ケアカンファレンスは、ミーティング時に行い、モニタリングは日々の個人記録によって行っている。 ・介護計画は、家族と職員の意見を入れて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	No. 25で記載したとおり、毎日の個人記録を作成し、職員同士で情報を共有することに努めているが、新しい職員や勤務の少ない職員等へ徹底されていない場合もあり、介護サマリーを作成している。また、事故報告とは別に、ヒヤリハット表を作成し、日々気づいたことを記録するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況により、マッサージ、リハビリ等、専門の方のサービスを受けている事例もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容の資格を持つ地域の方に訪問してもらったり、傾聴のボランティア、散歩の付き添い等、地域資源を生かすことに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望により、入居者全員が、協力医療機関に往診を依頼している。検査等が必要な時は施設の車で通院に付き添っている。ご本人、ご家族の意向に沿って、訪問歯科医療など適切な医療を受けられるよう努めている。	・協力医の往診は、月2回であるが、24時間の対応が可能で、発熱など急な事態にも応じてくれる。 ・訪問看護師が、週1回来訪している他、歯科医の往診は月1回あり、口腔ケアも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	雇用関係を結んでいる看護職員がいないため、訪問看護ステーションと週1回訪問をしてもらえる契約を行っている。また、開所以来、ボランティアで保健師が週1回支援をしてくれており、入居者、ご家族への支援はもとより、職員へのアドバイス、相談に応じてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、入院時の付き添いを実施し、情報提供に努め、退院時も、今後の対応について管理者等は医療機関に直接出向き、指示を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の協議の他に、個別に重度化したときの対応の仕方について、ご家族と協議を行い決めていく。また、対応方法は、ミーティングにおいて共有している。また、ターミナルケアに必要な体制づくりを行い、入居者ご家族と協力医療機関Drを交え協議し、同意書を交わしている。	・終末期ケアに当たっては、嘱託医、看護師、事業所と家族で今後の方針を話し合っている。事業所発足以来8名を看取った。 ・職員は嘱託医から「看取り～臨終間近のケア」という研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	契約をしている訪問看護師に講師として来ていただき、救急対応についての研修を行ったことがあり、研修資料として活用している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画を作成し実施したり、備蓄品、非常持ち出し袋等を備えている。また夜間を想定した連絡網を作っている。しかし、他施設等との防災協定等、今後の課題である。	・災害時、事業所の危険な状況を周知するため、ハザードマップを事務室に掲示している。 ・避難訓練は夜間想定を含めて年2回行っており、夜間想定連絡網を作り、近隣居住の職員と民生委員も入れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導等には、本人の行動を察知し、さりげない介助に努めている。また、認知症高齢者への対応の仕方、言葉がけ等について、研鑽するよう努めている。	・利用者には、馴れ馴れしさを避けて丁寧な声かけをし、人生の先輩として尊敬の念をもって対応している。 ・利用者からの思いがけない問いに対しても、生活歴から類推し、丁寧に答えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と職員との関わりを深めるために、職員配置を厚くしており、入居者の意向をきちんと把握し、自己決定できるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれに個性があるので、一人ひとりのペースに添うことを基本としている。日常的にミーティング等で、入居者の状態に応じた個別対応について意見交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの声がけが必要な入居者には、確認しながら、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に好きなもの、食べたいものの会話を楽しんでいる。準備、片付けは、もちろん、できる範囲で一緒に行うよう努めている。また、食事は職員も同じものをいっしょに取っている。	・包丁を使っの調理や後片付けなど、利用者と一緒に食事を楽しんでいる。 ・献立表は事業所で作成し、日曜日は、利用者の希望を入れて、寿司やうなぎ、天ぷらなど、特別メニューにすることがある。誕生日には赤飯でお祝いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成したものを踏襲し、栄養バランスがとれた食事を取っている。服薬の状況を見ながら、水分の必要な入居者に対して声かけを行っている。水分は食事中はもちろん、午前午後のお茶の時間を設け、入浴後や散歩から戻った時など、飲む機会を増やしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、必ず口腔ケアを実施している。できることはしていただき、手を出しすぎない介助を心がけている。訪問歯科診療の専門機関に、往診してもらっている入居者もいる。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、24時間の排泄チェック表を作成している。おむつの使用を、できるだけ減らすよう、まずは便意、尿意の際に「トイレへ行く」ということを大切にしている。	・排泄チェック表にて、利用者個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見計ってトイレへ誘導している。 ・現状をできるだけ長く維持できるようケアに当たっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェック表を作っている。医療機関と連携して、それぞれの入居者の状況に応じて、薬を使用する場合もある。なるべく自然な排便を心がけ、繊維質の多い野菜を中心にした食事を心がけ、芋類、寒天、ヨーグルトなどのおやつを実施している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在は月～土（水曜、日曜は散歩等のレクリエーションデー）の午後の時間帯で行っている。入居者は週2～3回、「ゆったり入浴」を実施している。しかし、入居者の状況により、シャワー浴を行う場合もある。また、入浴しない日は、足浴を実施する場合もある。	・一日4名の利用者が、午後の時間帯に入浴している。車椅子の利用者が多く、リフトを使っている。 ・職員は、浴室にて利用者との会話や歌を歌い、利用者が寛いで入浴できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	グループホームの基本であるため、安心して眠れるように、入居者の意向に沿って支援を実施している。眠れない入居者には、少し食堂で話をするなど、自然な眠りにつながるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は、名前を確認し、個人記録に記入している。服薬は入居者の状況が変化する度に変わっていくので、申し送りを徹底するよう努めている。薬が変わった段階で、業務日誌に詳細、副作用等を記入している。また、服薬一覧表を作り、掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームの基本である。健康のための体操、声を出すための歌、嚥下体操などを日常的に行っている。また、買物や外出の機会を増やすよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前記のとおり、日常的な外出支援に努めている。全員でのお出かけ企画を実施しており、法人所有の車両だけでは不足する場合は、職員の協力、福祉有償運送団体の協力などを得るようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩表を作成し、利用者の外出状況を把握している。職員の4名体制を採用し、職員と1対1で利用者との外出を楽しんでいる。</li> <li>・通常は事業所周辺を、20分ほど散歩し、買い物レクではコンビニにお菓子を買いに出かけている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の上、入居者個人所有の財布等に現金を入れている場合もある。日々の散歩の際、近所のお寺の賽銭等、職員が見守りながら使用する場合もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症ゆえに起こる帰宅願望を否定せずに、家族の了解の上で、電話をする場合もある。年賀状は積極的に書くよう勧めている。また携帯電話を所有している方もおられ、支援する場合もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「光の庭」に植物の鉢を置いている。ソファから鉢植えを楽しめる空間がある。温度、湿度、空気の入替えなど、職員全体で気を付けるようにしている。	・リビングには、菊の植木鉢など季節の花を飾り、コスモス、柿、芋などの壁飾りで季節感を演出している。 ・部屋の温度は、壁の温度計で確認し、湿度は50%を目標に、冬季の乾燥期には、加湿器や濡れタオルで調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子には、入居者個人所有の座布団を敷いている。狭いスペースではあるが、食堂とは別に、テーブルとソファを置いた空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご家族への説明で、使い慣れた家具等を持ってきていただいている。カーテンも入居者の好みの色等を重視し、準備していただいている。	・利用者は家族の写真や絵画などを室内に飾っている。居室担当制を敷き、担当職員は衣類の整理や家族との連絡をしている。 ・清掃表に基づき、居室、手すりの掃除を、日曜は上履きの洗濯、利用者の爪切りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力を活かす支援がグループホームの基本と考えている。居室の入口に名前を書いたり、「お手洗い」「浴室」等と書いた紙を掲示して、わかりやすく工夫している。施設は、すべて吊り扉で、バリアフリーである。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム  
ほっとハウス星ヶ谷

作成日 令和1年11月5日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束防止に関する研修は行ってきたが、拘束防止委員会の開催が3か月に1回義務付けられたことから、開催が必要である。	3か月に1回テーマを決めて開催する。	毎月のケース会議等に拘束防止委員会を組み入れて実施する。第1回を12月ミーティング時に、身体拘束とは、から行い、言葉による拘束等も行っていく。	3か月に1回
2	35	夜間を想定した避難訓練が十分ではなく、入居者の安全確保についての訓練が不十分である。	夜勤者一人の時間帯に災害が起きた場合を想定した避難訓練が実施されている。	・夜間を想定した避難訓練計画をつくる。 ・年間2回の避難訓練のうち、1回は夜間を想定し、実施する。	6か月
3	9及び19	ご家族との意思疎通が、時にすれ違ってしまったことがあり、今後、ご家族の意向を十分に把握することが必要である。	新規の入居者を迎える場合、十分な説明を行い、ご家族の意向を把握している。	新規入居者を迎える場合、2人以上で対応し、十分に説明を行う。受け入れが困難な場合の説明も併せて行う。	6か月
4	36	入居者への言葉がけについて、特に気をつけるようにしているが、時に投げやりになってしまうことが見受けられる。	当ホームの理念をスタッフ全員がよく理解し、声かけの工夫を常に行っている。	ケース会議の際、具体的な声かけについて、意見交換を常に行う。また、日々の工夫している点などを、日誌に書き残す。	6か月
5					